# 資源環境経済学特別演習 II 議事録（　１０月）

## ２０１１　年 度 第　　５ 回

**報告題名**　ジャワ農村における土地無・零細農世帯の就業参加について

：東ジャワ州スコリロ村を事例として

| | |
|---|---|
| **報告者**　　神浦友樹 | **日時**　１０月６日　午後３時～ |
| （**所属分野**）　国際開発学分野 | **場所**　第二講義室 |
| **座長**　中村彰宏 | **議事録担当者** 山口祥平 |

**出席者**

木谷、安江、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、Deffi、大友、スチン、八木、神浦、宮里、池田、威廉、王、金、中村、堀、山口、林、泉井、金（銀）、黄、今井、渋谷、室井、ナスンムンク、徐、趙、劉、王（偉）、井坂、伊藤（まき子）、薄井、金沢、佐藤、庄司、西田

**報告要旨**

インドネシアにおける経済開発の進展は、都市部の就業機会の増加をもたらし農村内の労働力を吸収している。その結果、農村世帯は所得源を農業関連だけでなく非農業関連まで多様化している。修士論文において、スコリロ村のデータから、80 年代の高度経済成長以前は農村内の土地無・零細農世帯が最も貧しいと見なされていたが、現在は土地無・零細農世帯の一部は、非農業関連の所得を得ることで農村内において相対的に高い所得を得ていることが分かった。また、一方で農村内には非農業関連への就業をせず農業雇用労働を主な所得源として、未だに農村内において相対的に低い所得のままの土地無・零細農世帯も存在している。今回の報告では、農村内の土地無・零細農世帯の就業選択について、特に非農業関連へ就業している世帯と就業していない世帯を比較分析し、それらの世帯間の所得格差の要因について検討する。

**質疑・応答**

**池田**：非農業就業について、どれくらいの期間、都市部に出ているのか。

**神浦**：日帰りで就業している例が多いと思う。一部は出稼ぎだが、大抵は農村から通勤している。

**池田**：農村の経済主体は、どのように職業選択をしているのか。

**神浦**：選択には、資産の皆無が影響していると考えている。

**池田**：資産があるとなぜ影響するのか。

**神浦**：土地所有世帯は土地なし世帯に比べて資産蓄積が容易であり、教育にも投資を行えるため、都市部の雇用労働に就く、または自家雇用が行えると考えられる。

**池田**：長期的なスパンと短期的なスパンで職業選択を考える方が見通しとしてはわかりやすいと思う。

**神浦**：親世代や知人から資産を継承・借用できる世帯が高賃金の職に就いているのではないかと考えている。または長期的に資産蓄積を行い、賃金の高い職業を得る可能性も考えられる。しかし、賃金の低い農業雇用労働では資産蓄積を行える可能性は低いと考えられる。よって土地なし世帯が富裕層と貧困層に２極化している原因は、主に他世帯からの資産継承・借用であるという仮説を持っている。

**池田**：就業先に対してのヒヤリングはしないのか。雇用側からの視点で見た方が事実関係がわかってくるのではないか。

**神浦**：時間の許す限り、そういった視点も取り入れてみようと思う。

**伊藤**：アプローチの方法として世帯の職業選択とか労働の分配を考えている。とした時に、その選択する主体とか分配をする主体は、世帯が独立して、自分の判断でするのか、世帯のまとまりとしてだれかが選択するのか、そこはどのように考えているのか。

**神浦**：世帯内の資源分配を主な問題とする場合、世帯内の内生的な意思決定メカニズムを明らかにすることは重要である。しかし、この研究では労働市場や金融市場など、世帯の意思決定に対して外生的な市場の不完全性に注目したいので、世帯内の意思決定メカニズムに触れずに分析を進めても問題ないと考える。

**伊藤**：また、そういったことをはっきりした方がデータがクリアになり、データ処理する場合の仮説のモデルもクリアになるのではないか。

**神浦**：世帯内の意思決定メカニズムを実証するためには、データ上の制約がかなり厳しいが、機会があれば取り組みたいと思う。

**高篠**：どのような調査をイメージしているのか。
**神浦**：ある程度自由回答のインタビューを特定の世帯にプレ調査として行い、その後世帯全体についての調査を考えている。日程の都合上、世帯全体への調査ができるかどうかは不明である。
**高篠**：建設労働についてはどのように調査するのか。
**神浦**：去年のデータに基づき、建設労働に就いている者を対象に調査を行う。

**石井**：就業選択についての質問ですが、在村で通勤している方々が対象となっている。農村世帯で生活していて都市に住んでいる。そして、場合によっては農村への送金という形で農村世帯の所得が底上げされている場合もあるのではないかと思うが、調査の中では反映されないのか。
**神浦**：送金所得を行っている世帯のデータは去年の段階でとれている。しかし、実際に移住労働を行っている個人の属性などの情報は得られていないため、移住労働は単なる送金所得として扱う。
**石井**：日本の場合だと学卒者の就業先など調査しやすいと思う。そのあたりの調査はどのように考えているのか。
**神浦**：インドネシアの場合には、完全に他出して送金を行うというよりは、季節的な移住が多い。

**池田**：職業の分類方法として安定性は考えているのか。
**神浦**：都市部の雇用労働はある程度安定しているのではないかと考えている。